

【公開文書】

臨床研究「高密度脳波計記録を用いた覚醒後過同期の性質と機能の評価」について

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

覚醒後過同期とは睡眠脳波における覚醒反応後に数秒から数十秒連続で出現するデルタ波(周波数が0.5-4 Hzの脳波)のことです。通常の覚醒反応後は眠りが浅くなりますが、覚醒後過同期は一見すると睡眠が深くなったように見える覚醒反応です。私たちは覚醒後過同期を覚醒と睡眠の境界状態にある現象と考えています。高密度脳波計で記録された覚醒後過同期を調べることで、覚醒後過同期の生理学的性質と機能を明らかにすることを目的とします。

② 研究対象者

2020年10月12日から2023年3月31日までに臨床研究「意思決定課題が睡眠に及ぼす影響」に参加された方。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2026年3月31日まで

④ 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。

利用開始日：2021年6月1日

提供開始日：2021年6月1日

⑤ 研究の方法

「意思決定課題が睡眠に及ぼす影響」で取得された高密度脳波計記録による脳波から覚醒後過同期の生理学的性質と機能を次の方法で調べます：

1. 覚醒後過同期の波形の精査
2. 周波数解析
3. 位相差解析
4. 睡眠徐波(睡眠段階N3の指標波形)、K-complex(睡眠段階N2の指標波形)との覚醒後過同期の比較を行います。

⑥ 試料・情報の項目

性別、生年月、人種、身長、体重、合併症、既往歴、前治療等、質問紙(朝型・夜型質問紙、ピッツバーグ睡眠調査票、エプワース眠気尺度)、高密度脳波計記録

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

氏名： 阿部高志

所属： 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

職名： 准教授

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

あなたが本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構：〒305-8550 つくば市春日 1-2 （高細精医療イノベーション棟内 502）

所属・担当者名：筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構 担当：鈴木陽子

電話・FAX・メール

電話：029-859-1858

FAX：029-859-1290

メール：suzuki.yoko.gz@u.tsukuba.ac.jp

対応可能時間「平日 9～17 時」